

令和 5 年度第 2 回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和 6 年 2 月 19 日（月）

13 時 30 分～16 時 45 分

場 所：青葉区役所 7 階会議室

出 席：青木委員長、小川副委員長、荒井委員、
齊藤委員、白石委員、丹治委員

※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会 委員長 青木 ユカリ

3 議事

(1) 議事録署名人選定 荒井委員

(2) 令和 5 年度青葉区区民協働まちづくり事業 企画事業報告会

◇各事業報告

◇質疑応答、意見等

① 仙台市ほたるの里づくり事業

委員 コロナの数年間のあと新しい方向に進もうという雰囲気があるとのことだが、
どういう議論が出ているのか。また、協議会と各地区の団体との関係を教えてい
ただきたい。

説明者 新しい取り組みということで、これまでは祭りでかなりの予算を使っていたが、
他の活動や除草作業等に予算が回らないというところで、打ち上げ花火的なもの
ではなく、年間を通してみんなに呼びかけながらほたるを守っていく気持ちを育
てた方がいいのではないかとこのところだ。また、後継者問題を何とかしていき
たいと考えている。協議会と各団体の関係だが、協議会として予算をもらいそこ
から各地区に渡しているが、各地区での活動がマンネリ化していたり、協議会に
入っていない団体もあつたりするところで、協議会には専門家もおり助言や協力
ができるので、ぜひ入って、活動の幅を広げてもらっている。

委員 学校との連携に力を入れており、いくつかの学校に呼びかけて作文絵画コンク
ールの作品を募集しているとのことだが、作品の活用の仕方はどのようなものか。
また、県民の森ホテルの会の活動の中で、周知、理解してもらうために DVD を使
っているが、他の団体は視聴覚的な資料の活用はしているのか。

説明者 作品の活用方法だが、優勝、準優勝、佳作などをつけて、それをカラーコピー
してフィルム化し、区民まつりや各団体の祭り等に貼り出している。DVD は市販

のもので、各地区の方々が学校や町内会に見せたりするときに、導入段階でホテルを紹介するのに使っている。

委員 　すてきな作品が出てきていると思うので、いろいろな場で展示をして、使うといいかと思う。ほたるの自作教材がメディアテークのアーカイブで見られるので、いろいろな場面で使っていただきたい。

委員 　担い手不足のところ、里親や興味のある子供たちの親世代を取り込めるような、ステップの低いボランティアなどから始めた方がいいのではないかと感じた。この協議会に入る、役割を担うのはハードルが高いと思うので、イベントの日の前後に掃除をするので来てくださいというようなお誘いからできるといいかと思いましたが、そういった取り組みもしているか。

説明者 　いろいろな地域から活動に来ており、本当は活動している地域の方に、ここでやっていることを伝えられればいいが、地域の方が親子連れで来るのが少ない。東北学院高校のボランティアなどが台原で一緒に作業や飼育をしておりいろいろ助けてもらっているが、やはり高校生でありずっと携わるとするのが難しいところもある。

委員 　地域の町内会や公民館など、その周辺の皆さんへの周知が必要かとも思う。

委員 　ブログ以外に情報発信しているものはあるか。

説明者 　年に数回、ほたる便りの発行や各地区での祭りに向けた資料提供、祭りの反省会などを除草作業や整備作業時に行っている。

委員 　各地域で個別に発信しているのか。情報がたくさん上がってくるものの、全域でどうなっているか見えるといいが、そういった工夫はしているか。

説明者 　台原小と旭丘小の3,4年生が、学校でほたるの勉強をした後、実際に台原森林公園に赴いて地域学習をしており、ほたるのエサのカワニナやほたるの住む場所などの話をしている。

委員 　活動に直接関わってない方でも情報を伝えることで応援ができることもあるかと思う。

② 西公園キャンドルライトファンタジー事業

委員 　実行委員会は何名ぐらいか。学生がいなくなったとのことだが、今後学生と一緒にやる予定はあるか。

説明者 　メンバーは20名近くいる。今年でPTA会長が終わる方に3名ほど入ってもらい、後継者をつくろうと考えている。青葉区の助成金であり、青葉区でふやしていきたいと思っている。学生に関しては、東北福祉大の先生がメンバーに入っており、いつも20名ぐらい来ている。ただ委員長までやるとなると難しいが、学生の委員長をつくりたい。最初は東北大・宮城教育大学合同サークルのe-LINKがお手伝いしてくれて始まったので、e-LINKの復活を願っている。

委員 　学生の関わりの点で、現場活動の部分だけだと彼らにとってやりいいのかやりにくいのがわからず、もしかしたら事前の計画や、これを生かして次にどういうふうなことという、中長期的な関わりに持っていくとやりやすくなる部分もある

るので、ご検討いただきたい。

説明者　私たちは 20 年近くやっておりノウハウはあるが、やはり学生が委員長になって新しいものを入れたり、子どもたちとの関わりも持ったりしてほしい。宮城教育大学の場合だと子どもたちとの関わりを持っており、近くの校長先生などが来てアドバイスをするなど学生も力一杯やってくれたが、コロナでボランティア活動が難しくなった。次年度は委員長を学生のメンバーから選び、私たちが手助けをするような体制を組んでいきたい。

委員　学生だと就職活動など自身の先の活動の影響が及び、なかなか後継者になる方を生み出すことが難しいと思う。近隣の学校の PTA 活動をしている方の中から、長期的にお手伝いをしてくれる方を探すのはいかがか。PR も進めていくと、そういった協力をしてもらいたいという方が出てくるかと思うので、広報活動も大切かと思う。市民の憩いの場でもある西公園を活用することは市民としても願っているところだ。また、倉庫の借用は何のためか。

説明者　例年だと全部使い切るが、余ったロウソクや紙コップのほか、はしごや雑用的なものを置いている。

委員　大量にいろいろ置いているのか。

説明者　大量ではないが 1 年間置いてもらうというかたちで契約している。コロナで 3 年間やらないと PTA もメンバーが変わり苦しい部分ある。夜の時間にわざわざ先生が来てやることではないというお話もあり、以前とはまた違った状況となってきたが、一生懸命手伝ってくれる PTA 会長もたくさんいる。

委員　PTA も学生もなかなか大変だが、頑張っていたきたい。

③ 回文の里づくり事業

委員　荒町のワンダーアートとご縁があってということだが、きっかけは何か。

説明者　私がボランティア活動をしている団体の人に、荒巻で回文の絵を描いている人がいると言われ繋いでもらい、荒巻のワンダーアートに行き 1 日活動を見せてもらった。

委員　カラフルな感じで他の表現とはまた違い、目を引く部分としても新しさがあるかと思う。回文だよりの中のイラストはだれが描いているのか。

説明者　自分が描いた。売れたらと思うが、そこまでいかない。我々が作ったのははがきサイズだが、市の教育センターの先生方が昔、写真の L 版サイズでかるた作ったことがあり、それくらいの大きさもいいかとも思った。

委員　ここからコミュニケーションも広がっていくのではと思った。今までの活動のスタイルと、そういった見えるものになっているもの、新しい関わりでの表現や展開の仕方を、関心のある方々と一緒に見つけていくのもあるかと思う。

委員　回文だよりは作並地区の住民に配布しているとのことだが、絵も情報量も豊富なので、地域にこの活動を知ってもらうためも、市民センターなどでの発信を検討いただきたい。

④ 大倉ダムの魅力発信事業「鯉のぼり×大倉ダム」

委員 コロナの明ける前にもかかわらず、成功したイベントになったと思った。土木遺産に認定されたものは、ダムか、それともダムに関わるこの活動も含めてか。もしダムだけであれば、イベント自体、宮城県、仙台市等後援もたくさん入り、協賛金も結構もらっており継続した活動に成長しているので、今後活動が、このイベントだけにかかわらず、ますます広がり、他からもお金が取れるような状況になっていくかと思った。

説明者 鯉のぼりは地元の方々の協力で進めており、大倉ダムの魅力発信を評価いただくために行っている側面もある。土木学会認定は、純粋にダムの建築構造であったり、地震だったりを乗り越えた上で60数年経っている、特殊性のある造りが維持され、仙塩地区の方々への水がめとして現役で頑張っているという部分と、そこを地域の皆が意識をし、鯉のぼりを掲げ、感謝の意を込めているという部分が、認定に至った経緯かと思う。

委員 ダム自体への周辺の環境の整備などに、新たな資源が入るというわけではないが、その活動があるからこそ、ダムが認定されたということだ。

委員 会場までのアクセス道路の改善へ働きかけをしているとのことだが、警備委託費が結構な割合を占めて使われており、課題になると考えていると思うが、見通しはあるか。予算を別のところにもっと使えるといいかと思った。

説明者 資金の面では、市の道路であったり、一部は私道という部分もあったりするので、その辺をクリアしていかないといけない。お金を使えばできるという部分、来場者が増えるというアピールできる部分があれば、行政へのアプローチができるかと考えている。

委員 いろいろなものが合わさって、発信に繋がったと思う。一つのコンテンツとして鯉のぼりとダムがあるが、シーズンの中でのダムの見え方という部分で、ダム掛ける何々のようなことが、関わる方がいないとそうは広がらないかもしれないが、いろいろな切り口で皆さんのアイデアや関心持つ方々との繋がりから、コンテンツやプログラムを想像するのも一つかと思った。またドローンで撮った画像の活用の予定はあるのか。

説明者 青葉区中央市民センターのホームページやYouTubeであげている。また、ダムの方にも提供し、ダムカードを配布する、ダムの事務所で流してもらい取り組みをしているが、もう少し広げていきたいと思っている。

委員 全国でこういったものが好きで来る方もいると思うので、そこから回遊できるような地域の広がりという観点があると、市民活動として行う部分と、地域の連携でお金を落としてもらえそうな工夫などにも広がるかと思った。

⑤ 宮城地区まつり実行委員会

委員 4年ぶりの開催で1万1,000人の来場者ということだが、コロナ前と比べてどうなのか。使用料でテント等レンタル料418万円とのことだが、「等」にどうい

ものが含まれるのか。

説明者 来場者数だが、通常開催をした4年前は2万数千人と報告したが、その人数が、きちんと測った部分掛ける何時間とやっではいるが、去年よりも人が来ていたので少し上乘せするなどというのが積み重なっていった部分がある。テントの委託料については40数張のテントのほか、屋外ステージに雨が降った時のためのテントを立てたが、物価の高騰などがあり、4年前に比べるとテントのレンタル料が倍程度になった。物価と人件費の高騰が非常に大きい。

委員 協賛金がないと運営が難しいかと思うが、協賛金は宮城地区の皆さまからだけか、市全体からもらっているのか。

説明者 協賛金約200万は、ほぼ宮城地区内の企業からいただいている。宮城商工会に加盟している方々全部に手紙を出して協賛を募ったり、関係が深い企業などにはこちらから出向いたりしている。

委員 ジュニアリーダーや中高生のボランティアが活躍したとのことだが、宮城地区にはジュニアリーダーくまっこというサークルがあり、活発に歴史ある活動をしており、活用していいと思ったが、その他の中高生のボランティアは当日だけなのか、それとも企画の部分で関わったのか教えていただきたい。

説明者 ジュニアリーダーくまっことは子供遊び天国の部分について、企画の部分から市民センターと一緒にやっていると思う。ボランティアの中学生高校生、企業については、当日の運営をお願いしている。もう少し若い方々に企画の段階から参加をしてもらえないかという思いもあり、小委員会のようなものを、来年度から設立したい。企業のボランティアについては、毎年大勢の方がいらっしゃるが、働き方改革などがあり、今回4名だけの参加だ。

委員 中学校などは、地域との関わりやボランティア活動に力を入れていると思うので、たくさんの中高生が参加してもらえるような組織になればと思うが、すべて事務局でやると大変なので、その部分だけの組織など検討いただけるといいかと思う。

⑥ 青葉区民まつり実行委員会

委員 イベントの企画運営補助業務委託費用が数百万という高額な費用で、プロポーザル審査で選んだとあるが、委託先は一社か。

説明者 企画運営補助業務委託としての委託先は一社だ。委託料の中には、それ以外にも警備費なども含まれている。

委員 企画している費用としては高いと思ったので伺った。

委員 企画運営補助業務の公募型プロポーザル方式という点だが、募集開始から申請締め切り、結果通知が直前だが、通常こういう形で行政は仕事しているのか。次年度会場が変更になるというイレギュラーな事態が何年間か続くだろうが、次年度以降こういうスケジュールでいいのか。

説明者 出店者、出演者の募集の時期は、毎年7月8月ごろに行うスケジュールになっている。業者からは事務局とのやりとりが延び期限が迫ってやりづらいという意

見はあったが、スケジュールの開始が遅いという話はなかったので、来年度以降会場が変わるので前後するかと思うが、そこまで大きく早めるということは考えていない。

委員 今回新たに学生メンバーが多数増えたとのことだが、何か工夫をしたのか、あるいは要因があれば教えていただきたい。

説明者 コロナ禍になって、学生が全く参加しないまま卒業してしまっていたが、大学などに声かけをし、ゼミの先生がまちづくりに関わりを持ちたいということで、そのゼミの学生が一気に入ってくれた。

委員 複数の大学からというよりも、そのゼミの関係が多かったのか。

説明者 今のところ大部分がそのゼミの学生にはなっているが、他の大学も何名かずついる状況で、今後どうふやしていくかが課題だ。

委員 学生としては関わりたい気持ちがあり、他の大小さまざまな催しものにボランティアで関わっていると拝見したことがあったので、青葉区民まつりだと多様な催しもあり、行きやすさがあるかと思った。

委員 来場者数はどれくらいか。また評価基準として、来場者数がこのぐらいたとなど設けているのか。

説明者 約 1 万 8000 名の来場者に来ていただいた。特に評価のポイントは来場者数では示してはいないが、昨年度は 1 万 6000 名であった。

⑦ 青葉通まちづくり協議会

委員 公共空間の利活用という、大きな、いろいろな地域に該当するテーマかと思う。協議会の名前から青葉通という一つの地域性、固有性があるかと思うが、令和 5 年度の取り組みを踏まえて、利活用マニュアルなども一つの成果であり、次に繋がってくる部分かと思うが、どういう成果が今年度の取り組みを通して得られたか。

説明者 マニュアルのフォーマットについては、一般論的な部分で変わらないところもあり、一つの成果だと思っている。2018 年度にまちづくり協議会で青葉通まちづくりビジョンを策定した。2018 年度から、コロナや青葉通を取り巻く環境も変化があり、ビジョンを見つめ直す作業をしているが、今回の社会実験がどのように今後のビジョンの変更に寄与するかは、まだ見つけられていない。ストリートピアノ協会との共催など、そういった繋がりは成果だと思う。社会実験の振り返りを行いながら、次年度以降につなげていきたい。

委員 潜在的なニーズの顕在化に繋がるという目的は、どうだったのか。また、やりたいというプレイヤーは結構いるのか、それとも見つけるのに苦労しているのか。

説明者 潜在的なニーズでいうと、地下道でピアノを置いて演奏ができる空間をつくれるとか、歩道でマルシェができることを知らない方もたくさんいると思うので、こういったことができる気づき、自分が今度やってみようという気持ちに変わっていくこと、それが潜在ニーズの掘り起こしというところだ。プレイヤーについては、今年度やってくれストリートピアノ協会や The Youth は、貴重なプレー

ヤーだと認知している。

委員 広報の仕方として、チラシに7万2000円ほどかかっているが、これはまちなかピアノとマルシェ両方の費用か。

説明者 協議会として作成したポスターだ。それぞれのイベントでのチラシは、イベント開催費に計上している。

委員 せっかく素敵なイベントを計画しているので、マルシェなどにも参加したいというような方が出てくるような、お誘いの仕方や場所をもうひと工夫すると、より青葉通全体の盛り上がりが出てくるかと期待する。

説明者 今回はThe Youthがマルシェに出店する方への声掛けを行ったが、狭いコミュニティ、個人の繋がりが出店を決めた方もおり、社会実験としてはコントロールしやすいというメリットもあったが、今後事業展開していく中ではいろいろな方がマルシェを出店できるようなかたちも、一つ事業のモデルとしてあると感じている。

⑧ 「お宮町」まちづくり協議会

委員 お宮町にお住まいだったり、商売をしている方だけでなく、留学生の方などにも興味を持ってもらえたことは良かったと思う。28ページ1,500部の小冊子は、これからどこに配布するのか。

説明者 町内会で回覧と、あとは何部かは皆で見てもらえるよう会長にお渡ししたい。あとは学校関係や商店街にも渡して、難しければコピーするなりして、できるだけ皆さんに周知をしたい。冊子は紙だが、実際これを行動に移せるかどうか、これから何年間が非常に重要だと考えている。

委員 今年度中に作るわけではないのか。

説明者 3月いっぱいでき上がる。

委員 歴史あるお宮町なので、有効にお使いいただきたい。

委員 アンケートの結果から見えてきたことや、地域として今後考えていくべき、目指していくべきことを教えていただきたい。

説明者 いい面としては買い物が便利だったり人情豊かだったり、イベントもある程度あるなど、非常に良い評価はあったと思う。魅力あるまちづくりをしていくという上で、例えば無電柱化など、より綺麗なまちにしていきたいという内容のアンケート結果が出ている。地域の方々には自分ごととして、私どもも一緒に活動していくことができれば、本当にいいまちになると考えている。

委員 そういう中身も小冊子の中に生かされると思うので、その成果物をどこかで拝見したい。活動との関わりで、学校の先生方や小中学生などは何か動きはあったのか。

説明者 宮城教育大学附属小学校とは七夕を一緒に掲示しているが、小学校に行って七夕の歴史の話をしたところ、ぜひ4回ぐらいにわたって話して欲しいということで、大人たちが今何を考えているか、子供たちがどう思っているのかというキャッチボールをしている。非常に子供たちは興味を持って聞いてくれる。

- 委員 各分科会が清掃活動などしており、少ない人数の中で大変かと思いつながら、もう少し中学生など参加できるような仕掛けがあるといいと感じた。歴史ある小中学校を抱えている地域なので、関わる子供たちが増えることを願っている。
- 委員 少人数制の分科会を3つつくって展開しているとのことだが、実際うまく稼働しているのか。人数構成はどうなっているのか。
- 説明者 各分科会は大体15人ぐらいだ。各分科会がそれぞれ活動しており一生懸命やっているが、リーダーやサブリーダーを中心として、4、5人がある程度頑張り、その周りにはなかなか参加が難しいという状況なので、来年は一般の協議会のメンバーも中に巻き込むような形で、より熱のあるものにしていかなくてはいけないという話が出ている。
- 委員 分科会はテーマに応じて増えていくのか、それとこの3つを軸にしながらしばらく続けていくのか。
- 説明者 3つの分科会がそれぞれ動いてはいるが、今回小冊子を作るという大きな目標があった。これから実働に入ると、企画運営をするのは各分科会で、全体で活動する時はみんなでやる。もう少し人の出入りをシャッフルすることで、お互いの魅力を感じてもらえる活動に切り換えようという話が出ている。
- 委員 大所帯の協議会は運営の仕方が難しい点があると思うので、少人数制で分けて対応するというのも一つ工夫したと思った。試行錯誤しながらやっていくのか。
- 説明者 そうだ。連合町内会と東照宮と学校関係と、都合のいい時間がそれぞれ違うので、お互いに寄り添っていかないと組織がうまくいかない。違う人たちと出会うことが、この組織にとって重要だと思うので、あえて難しい方向ではあるが何とかそこをクリアして、地域がより良くなっていくことに、最善を尽くしていきたい。
- 委員 一緒に考えて一緒に歩める仲間がいるというところが強みになっていくと思う。

⑨ 東六地区令和風土記作成委員会

- 委員 教材としてすばらしい作り方だと思うと同時に、住民参加という側面は少し弱いかと感じるが、どのような形で住民参加というお考えか。
- 説明者 11名の編集委員のうち地域の方々3名メンバーに入っており、それぞれ自分たちのページに責任を持って作っている。教材としてどうかというのはやはり先生方の評価もいただいて、修正をしながら作っている。
- 委員 学校と地域との関わりや地域の持っている力が、副読本に出てくるかと思えば楽しみだ。低中高とそれぞれの発達段階に応じて、この地域を学ぶための大事なエッセンスがこの中に込められるだろうというところで、今後学校のカリキュラムの中でも、総合的な学習や社会科の学習とリンクするように、さらに具体的に組んで、より学校と連携していくと推測するが、そこら辺も含めた十年間の計画ということか。
- 説明者 そうだ。編集委員の中には現職の校長先生も入っている。委員会は学校の校長室でやっており、他の先生方にもその辺は伝わるようにしている。地域の方々も小中学校に入っているいろいろなことをやっているのだから、こういう教材があると先生

方も助かると思うし、先生方も異動するので、こういう経緯があったのか、この部分を教材としてこういうふうに使っていかうなど、繋がっていくと感じている。

委員 他地域や学校区でも、同じような取り組みが広がるように願うし、先例となつてうまく周りにも広めていただけるとありがたい。

委員 150万円の印刷費で1,200部の副読本を作るとのことだが、学校に寄贈するのか。

説明者 そうだ。学校で今後10年間使う部数を出している。それプラス、青葉区に50部、編集に携わった先生方にも何部かずつ差し上げるので、少し多めに作ろうかと思っているが、基本的には学校にすべて寄贈する。

委員 間もなく完成を迎える中で、関わった方々の変化で印象的なエピソードはあるか。

説明者 教材は文部科学省経由で与えられたものの中での教育をずっとやってきたわけだが、自分たちが作ったものが学校の中で使われるというのは、先生方にとっても嬉しいと思う。でき上がりを楽しみにしてくれている。

委員 先生方のその気持ちの変化が一番大きいということだ。

説明者 そうだ。みんな編集会議では熱心にやってくれているので、本当にありがたい。

⑩ 仙台伝統ものづくり塾実行委員会

委員 堤焼の講座は2日間通しでないとは参加できないとどこかで見たが、何で広報したか。

説明者 市政だよりやちらし、市民センターだよりで広報した。

委員 それでは柏木市民センターのセンターだよりで見たのか、行ってみたいと思う魅力的な講座だった。こういったものが、市民として長年住んでいても、意外に知らなかったり気づかなかつたりしたようなものが、事業として取り上げられるのはすてきだと思ったので、日程を1回だけではなく、数回開くとより参加したい方がいるのではないか。

説明者 2回連続講座にしたのは、体験と講話で学びを深められるというところで組み合わせたが、この講座も人気で、申し込み開始2日で定員いっぱいになった。多くの方に体験いただきたいというところで、来年度の案の一つとして堤焼の講座も考えているところだ。

委員 日程の件だが、基本的には平日にやるということか。どうしても仕事をしているといけない人は結構いるのではないかと思う。今まで市民センターにアクセスできなかった、してこなかった層を考えると、土日の開催も一つの手として考えるのかと思うと同時に、希望者は確実に増えてしまうとは思いますが、開催日は検討していただくといいかと思う。

説明者 令和3年までは土日に行っていたが、昨年土日にプラスして平日開催の講座を実施したところ、非常に大人気だった。平日でも人が来ていただけるとのこと、また夏休みを利用すれば小学生も来やすいかと思い、箆笥の講座は夏休み期間の平日に開催した。

- 委員 仙台そのものが伝統的なものをたくさん今でも残しているまちだと思ひ、そこに光を当て、取り上げるのは、市民としてありがたい。体験学習になるのか、学び、知識的なものを主とするのか、それとも両方兼ね備えるのか、その対象にする伝統工芸によっても違ってくると思うが、その辺を上手く組み合わせていくと、より目的に迫ると思う。仙台には伝統工芸を取り上げた自作視聴覚教材のライブラリが仙台メディアテークの教材映像アーカイブにある。そういうものを使いながら、講師の先生のお話を聞き、学んで、そして体験というようなことができると、さらに内容的にも広がると感じた。
- 説明者 いろいろな方面から物事を見て学びを深めるために連続となる講座を行ったり、参加しやすさを考えて単発で行ったりしたが、何を求めるのかも考えながら講座を実施していきたい。講座で使用する映像は、講師の方が用意することもあるが、メディアテーク等で利用できる映像も活用することで、さらに魅力的な講座になるかと考えるので、検討したい。
- 委員 企画チームは市民の有志が集まったとのことだが、どういう成り立ちか。
- 説明者 ものづくり塾の企画は、柏木市民センターと事務局で考えていたが、市民の中から企画を一緒に考えてくれる人を募集しようという案が出た。講座の最後に毎回アンケートをとっており、昨年度から、一緒に企画を考えるチームに参加しませんかという質問事項を加えたところ、参加したいという方が多く、座談会を行ったのが始まりだ。
- 委員 受講した方の中からということだ。現在何名ぐらいいるのか。
- 説明者 15名ぐらいいるが、ここ数回は7、8人の参加だ。
- 委員 今後も受講した方には呼びかけていくのか。
- 説明者 そうだ。増え過ぎた時は検討するが、基本的には募っていきたい。
- 委員 柏木市民センターとの共催は、この事業の組み立てとしてそうなっているのか。
- 説明者 そうだ。平成28年度から柏木市民センターが実行委員会に加わり、共催でやっている。ただ今後もずっと柏木市民センターだけということではなく、他の市民センターともという話は柏木ともしており、長い視点で検討が必要かと感じている。
- 委員 地域の活性化の観点からすると、作るものや背景によっては、それに近い地域の方の参加や、作り込みということも考えられるのかと思ったところだ。
- 説明者 企画チームをつくったもう一つの目的として、実行委員の高齢化、担い手がいなくなっているという現状がある。柏木市民センターを除いた純粋な市民側のメンバーが、委員長1人になっており、実行委員への呼びかけもハードルが高いということで、好奇心ややる気を發揮していただくようなアイデアを実現してみませんかと募ったところ、何人かの方が熱心に企画に加わっている。我々としては様子を見ながら、本人の気持ちも踏まえつつ、将来的にはそういった方々の中で本当にやりたいという方を実行委員に加えたいと考えている。

⑪ 仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会

- 委員 上演者を育成することがこれから大切になってくると思うが、上演をする人の講習会はやっているのか。
- 説明者 上演体験の場でやり方等の説明をして、実際にみんなの前で上演してもらう講習会を行っている。上演体験の参加者のうち希望の方には、こちらで開催する上演会で実際に演じてもらっている。
- 委員 教えてもらいながら、トライするという感じか。
- 説明者 紙芝居は実践あるのみということで、最低限の発声や間の作り方などの入門を講習会でやった。
- 委員 育成をする人を見つけるのが大変であれば、地域の社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会に働きかけをすると、地域の子どもや高齢の方などにお話をする機会もあるかと思う。
- 委員 上演会と講習会が全く別個のスケジュールリングで動いているが、上演会をした後にやってみませんかという呼びかけができると、より講習会に繋がってくる、あるいは担い手が見つかりやすくなるのかなと思うが、いかがか。
- 説明者 今回は上演体験会の後に上演会、最初に練習をし、その後実践の機会を設けるスケジュールだが、実際に見てもらってやりたい人を募るというスケジュールもいいと思うので、次年度の参考にしたい。
- 委員 紙芝居の仕様はどのようなものか。
- 説明者 委員が手づくりしたものになっている。台詞の部分は印刷をしており、立派なものを作っている。
- 委員 同じものを印刷して作っているのか、それとも唯一無二のものか。
- 説明者 この事業限定のものだ。
- 委員 著作権は仙台市が持っているのか、それとも作った人か。
- 説明者 著作権は紙芝居実行委員会が持っている。
- 委員 せっかくの活動なので広げたいところもあるし、広げられない部分もあるのかと思ひ伺った。
- 説明者 青葉区内だけではなく、市民図書館をはじめ市内の図書館で貸出等するなど、全市的に皆さんご覧いただけるようにはなっている。

(3) その他

4 閉会

以上の内容について、相違ないことを認めます。

署 名 人 _____ 印

議長（委員長） _____ 印